

法務総合研究所研究部報告

12

—被収容者情報管理システムの利用方策に関する研究—

2001

法務総合研究所

は し が き

法務総合研究所研究部が最近実施した研究調査の結果をとりまとめ、ここに研究部報告第12号を刊行する。

報告する調査研究は、「被収容者情報管理システムの利用方策に関する研究」であり、現在、我が国の矯正施設すべてをつなぐ広域ネットワークによって管理が行われている被収容者情報のデータベースの利用の現状を検証するとともに、同システムの一層の効率化及び新たな視点での利用方策を模索・検討しようとするものである。

21世紀はIT（情報通信技術）時代と言われ、各方面でのIT化が叫ばれ、その導入が検討されはじめている。法務省矯正局が管理する広域ネットワーク上の被収容者情報のデータベースは、それに先立つ3年以上も前の平成9年4月に運用が開始され、昨年の8月末時点で既に、行刑・少年合わせて40万件を超えるデータが蓄積されるに至っている。

行刑施設と少年施設のデータベースは、構築の目的に若干の違いがあるため、管理するデータ内容に差異が認められるものの、同データベースの利用方策の確立とその運用の一層の適正化は、刑事政策の一翼を担う矯正行政へのIT導入の可能性を探る重要な試金石の一つだと言える。いずれにしろ、本研究报告が、矯正行政におけるIT運用研究の先鞭となり、後続研究の扉を開くきっかけとなれば、幸いである。

なお、今回の調査研究の実施に当たり、御理解と御協力を賜った法務省矯正局の関係各位に、心からの謝意を表する次第である。

平成13年3月

法務総合研究所長

頃 安 健 司

被収容者情報管理システムの利用方策に関する研究

研究官	滝本幸一
研究官	古田薫
研究官	立谷隆司
研究官補	兼平優

目 次

第1	はじめに	5
第2	研究の目的	6
第3	被収容者情報管理システムの概要	7
1	LAN システムの概要	7
	(1) 行刑施設が管理するデータ等	7
	(2) 少年施設が管理するデータ等	10
2	WAN によるバックアップの概要	12
第4	WAN データを利用した収容履歴調査	13
第5	データ・フィールドの内容の統計的分析	36
1	WAN データを利用した統計処理	36
	(1) 少年鑑別所退所事由とそれ以外のフィールドとの関連	36
	(2) 少年院の種別とそれ以外のフィールドとの関連	42
2	少年院出院者の成行き調査	46
	(1) 成行き調査の統計処理方法	46
	(2) 出院者の成行きとそれ以外のフィールドとの関連	50
	(3) 成行き調査の結果分析	82
第6	データ・フィールドの時系列変化の把握及びその要因分析等	91
第7	まとめ	97
1	収容履歴及び成行き調査を行う上での課題	97
	(1) 正確なデータ入力	97
	(2) 大規模検索が可能なシステムづくり	98
	(3) データ・フィールドの最適化	98
2	データ度数分布, クロス集計を行う上での課題	99
	(1) 異なるパーティション間でのデータ・フィールドの連結	99
	(2) 入力データの正確性の確保	99
3	収容動向等データ内容の時系列変化の把握, 動向の要因分析を行う上での課題	100